

キャリアデザイン学部

I 2012年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

キャリアデザイン学部は、FD活動をとおして常に教育内容、教育方法の改善に積極的に取り組んでいる学部として評価できる。また、社会との連携や社会貢献という観点からも毎年新しい取り組みを試みようとしている点も高く評価できる。2012年から開始した新カリキュラムの完成年度において、こうした取り組みを、教授会執行部や質保証委員会等のリーダーシップはもとより、全教員による自発的な活動として定着させ、これまでの総括を行うとともに、次なる展開へ向けての足掛かりとなる新たな活動にも期待したい。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会から特に改善意見は出されていないが、2012年度から開始した新カリキュラムが完成年度を迎えたので、今年度は教学改革委員会を発足させて、カリキュラム改訂の準備作業を行い、12月までに学則改正の手続きを経て、2017年度から施行させることを予定している。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

キャリアデザイン学部の教員に求められるのは、理念・目的についての基本的理解に立ったうえで、自らの研究および教育を遂行することのできる高い能力と倫理性であり、学部の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた教育活動や学生指導を行なう意欲と専門的な力量である。また、個人として研究・教育を遂行するだけでなく、教員間の組織的連携やチームとしての研究・教育の実施に積極的に参加し、貢献することが求められる。

教員組織の編制においては、各教員の専門性や適性を踏まえつつ、学部運営および教育においてその一翼を主体的に担えるように配慮すると同時に、教員間の組織的連携によって学部運営および学生に対する教育に学部全体で責任を負うという体制を築いていく。そのために、チームとして取り組む各種委員会活動やFD活動等を通じて、教員組織に「同僚性」の文化を育て、各教員の力量形成と教員集団としての教育力の向上が相乗的に期待できるような「学習する組織」を築いていく。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規（p11-13）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・教授会執行部4名（学部長1名、教授会主任1名、教授会主任・体験型選択必修科目担当1名、教授会副主任1名）

・教授会（原則として月2回）

・教務委員会

・学部FDミーティング（定例年3回）：教育の進捗状況を組織的に点検。

・質保証委員会：学部全体については「自己点検表」を、各委員会等については「自己点検チェックシート」を用いて点検し、その内容を学部FDミーティングで発表している。

・授業FDミーティング：2016年度も重点課題となる科目（必修英語）の兼任講師を招集して実施

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・キャリアデザイン学部自己点検表

・2015年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート

・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告（2016年2月23日キャリアデザイン学部質保証委員会）

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

（～400字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻は、2013年度にキャリアデザイン学研究科として独立したことから、学部教育と大学院との連携をはかるようにしている。具体的には、学部教授会において毎回、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され学部全教員への周知と意思疎通をはかっている。また、「学部改善計画2015検討会」では今後の学部と大学院教育との連続性や連携のあり方を確認した上、具体的に検討することや、学部執行部と大学院執行部との懇談の場を設けている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書（p25-26）

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

本学部の教育課程は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる。学部設立時の構想を現在まで踏襲しており、教員組織は、三領域のバランスが適切に配慮されている。専任教員29名中、発達・教育キャリア10名、ビジネスキャリア10名、ライフキャリア9名となっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・大学案内2016（p102）
 ・キャリアデザイン学部入試パンフレット2016（p22-23）
 ・2016年度キャリアデザイン学部履修の手引き「2016年キャリアデザイン学部専任教員」 学部 - (125) - (140)

2015年度専任教員数一覧 (2015年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教員数	うち教授数
キャリアデザイン	21	8	0	0	29	17	9

専任教員1人あたりの学生数（2015年5月1日現在）：43.5人

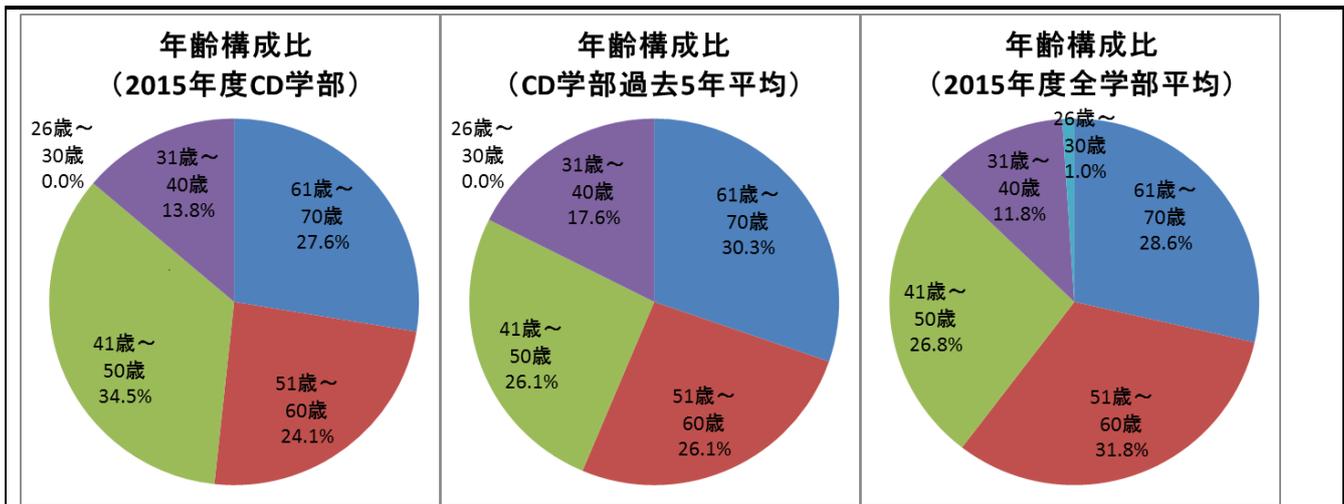
②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。
 新任教員の人事の際には、年齢バランスを適切化することに配慮した選考・採用を行なっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・大学評価支援システム大学便覧データ（2015年5月現在）
 ・大学評価支援システム大学便覧データ（2016年5月予定）（作成時は学部事務課のデータ使用）

年齢構成一覧 (2015年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	0人	4人	10人	7人	8人
	0.0%	13.8%	34.5%	24.1%	27.6%



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

・専任教員採用、兼任教員採用についての教授会内規 (p11-13)

「教授・准教授・専任講師の任用(昇格)に関する基準」「専任教員の任用に関する基準」「任期付教員の任用に関する基準」

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

・専任教員の募集は、原則として公募で行われており、専任教員の採用や昇格の人事は、学部教授会と研究科教授会が定めた内規に基づいて厳格に行われているといえる。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A B C

【FD活動を行うための体制】※簡条書きで記入。

・学部FDミーティングは全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて年3回実施している。

【2015年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※簡条書きで記入。

・学部FDミーティング

第1回(4月)

学部長から新年度の運営方針や、各担当者から新カリ科目の進捗状況の報告、各委員会からの活動計画、学部シンポジウム、新入生オリエンテーション、キャリアアドバイザーの取り組み状況、キャリアデザイン学会研究会の予定などが示された。

第2回(10月)

学部長から年度当初の学部計画の半年後の点検、質保証委員会による中間報告、新カリキュラムの進捗状況の報告と点検や、兼任講師との合同によるFDミーティング(体験型科目など)の報告、新入生オリエンテーションの報告と評価などが行われた。

第3回(2月)

質保証委員会から今年度の学部教育活動についての評価と改善策が提案されて全教員に周知され次年度の課題を確認した。専任教員によるFDミーティングは以上の定例的なもの以外に必要に応じて随時実施した。

・授業FDミーティング(2014年度開始)

重点科目として「必修英語」「地域学習支援士」を選び、科目を担当する全教員(専任・兼任教員)が授業の現状と振り返り、課題を抽出し改善をはかった。

・FDミーティング:法政大学キャリアデザイン学会による専任教員の研修会(年3回)

教員の著書をテキストにして、毎回著者自らによる発表と意見交換が行われる。キャリアデザイン学の構築に向けた学際的な議論の場となっている。

・授業相互参観(ピアレビュー)の実施:専任教員が、他の専任教員の授業を参観

・オムニバス授業における担当者間の定期的な情報交換・意見交換

・複数開講科目でのシラバス内容の共有、反省点・改善点のディスカッション等

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD ミーティング議事録（2015年4月1日、同年10月16日、2016年2月27日）
- ・2015年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<p>・2013年度までの兼任講師懇談会を変更して、2014年度から授業FDミーティングを開始した。年度ごとに重点科目を選び、科目を担当する全教員（専任・兼任教員）が授業の現状と振り返り、課題を抽出し改善をはかる。教員間の意思疎通をはかりつつ、授業内容や教育方法、成績評価の基準などを相互に確認する機会になっている。</p>	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<p>・特になし</p>

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部の教員・教育組織について、各教員の力量形成と教員集団としての教育力向上のための教員像、および教員組織の編制方針を明らかにしている点が評価できる。必要な役割分担や責任の所在も明確であり、大学院教育との連続性や連携も図られている。発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる教育課程に基づいた教員組織が編成され、年齢等のバランスに配慮している。教員の採用・任免・昇格に関わる各種規程も整備されており、その運用も適切に行われている。

FD活動については、学部FDミーティングを定例年3回計画的・体系的に実施している。その他にも、重点科目を設定しての検討・協議や教員の著書をテキストにして意見交換するなど、活発な活動が行われている点などが他の学部の模範とされ高く評価できる。また、毎回の学部教授会において、大学院研究科長から大学院関係事項が報告され、学部内の意思疎通を図ったり、授業FDミーティングで、選ばれた重点科目を担当する全教員（専任・兼任）が、授業の改善と教員間の意思疎通を図り、授業内容や教育方法、成績評価などを相互に確認する機会をもうけていることなど、これらも高く評価できる。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

本学部では、以下の方針のもとに、教育課程を編成・実施している。

1. 「4 学位授与の方針」に定めた学修成果を実現するために、専門科目を以下のように分類している。「講義科目」（主として4の(1)(2)に対応)「演習」（主として(2)(3)に対応)「体験型学習」（主として(4)に対応)。科目分類設置と育てたい能力の対応関係を意識することで、教育課程の体系的性を担保している。
2. 科目群のシーケンスとして「基礎」「基幹」「展開」「関連」の科目種別を明示して、学生の段階的・系統的な履修を促している。
3. 講義科目については、各科目が「教育」「経営」「文化・コミュニティ」のどこに位置づくのかを明示し（複数の領域を横断する科目もある）、「3 教育目標」に定めたように、学生が自らの「専門性」形成を意識した体系的な履修を行うように促している。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。			

<p>本学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1 年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。</p> <p>専門科目については、1 年次から履修できる「基礎科目」、2 年次から履修できる「展開科目」「関連科目」、2 年次秋学期から履修できる「演習」、4 年次に履修できる「卒業論文」「キャリアデザイン学総合演習」を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、専門科目は、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の 3 領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通→分化→統合という学習の履歴を辿ることができるように設計されており、カリキュラムの体系的性が保たれている。2012 年度からは新カリキュラムを実施し、これにより学生が自身の専門を意識しつつ体系的に履修しやすくなった。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部 - (2) - (3) ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部 - (9) ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部 - (10) - (15) 	
<p>②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけではなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生個々が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「卒業するためには」学部 - (2) - (3) ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「カリキュラム構成図」学部 - (9) ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「市ヶ谷基礎科目・専門科目カリキュラム表」学部 - (10) - (15) 	
<p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、学生の能力育成という観点から、各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとるとともに、「キャリアデザイン学入門」「各領域の必修の入門科目」にはじまり、選択必修科目である「体験型学習科目」を経て、「演習」へとつなげている。さらに「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) - (31) 	
<p>②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリア研究調査法(質的調査)」「キャリア研究調査法(量的調査)」を配置している。キャリア教育については、市ヶ谷基礎科目に「就業基礎力養成 I・II」、専門科目に「キャリアデザイン学入門」、「就業応用力養成 I・II」、「演習」を設置するだけでなく、すべての専門科目が、広義の意味においてキャリア教育的な効果を持つように配慮している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (2) - (15) 	
<p>③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学生の国際性を涵養するためには、展開科目において、3つの領域ごとに「外書購読」を配置するほか、「キャリア体験学習(国際)」においてベトナムと北京、「SA」ではオーストラリア、ニュージーランドの大学と提携している。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施している。</p> <p>また、2014 年度から英語強化プログラム(ERP)のコースを実施している。留学生の積極導入等をはかるために 2015 年度入試から留学生定員 10 名の枠を設定した。2016 年度入試からは、バカロレア入試や日本人学校指定校入試のほかに、</p>	

従来の A0 入試の枠にグローバル体験推薦入試を導入することにより留学生や国際体験をもつ日本人の入学者を増やして国際性の涵養に努める。さらに 2017 年度からは海外の指定校（韓国）入試も導入することにより、これまで以上に学生の国際性を滋養する取り組みに配慮する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）
- ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「体験型選択必修科目/キャリア体験学習（国際）」 学部 - (28) - (29)
- ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「スタディ・アブロード (SA) プログラムについて」 学部 - (111) (112)
- ・SA パンフレット
- ・2017 年度入学試験委員会議事 2016 年 4 月 7 日「2016 年度入試制度変更概要」(p6)
- ・2017 年度入学試験委員会議事 2016 年 4 月 7 日「日本語学校指定校の推薦条件について」(p19-21)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・2012 年度から実施している新しい教育課程の完成を目指す。そこにおいて、学生が自らの重点的な専門性を形成できるような指導体制を整える。具体的には、①新カリキュラムの完成年度に合わせてその総括をする、②必修英語の質保証をはかる、③ICT 教育の質保証をはかる、との対応をとる。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では専門分野に特化した人材としてだけではなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。具体的には、教養科目と専門科目を互いに相乗的な効果をあげることができるように設置するとともに、学生の能力育成の観点から、共通→分化→統合の積み上げ型のカリキュラムを編成し、提供している点が評価できる。

初年次教育については、アカデミック・リテラシーを獲得できる科目が配置されている。キャリア教育においては、学部の特徴を活かした基礎科目から専門科目まで体系的に配置されている。

学生の国際性を涵養するために設置されている科目を毎年一定数の学生が履修しており、海外にも行っていることは評価できる。カリキュラム改革後、卒業生アンケートのカリキュラム満足度が上がっているのは効果があったということで評価ができるが、さらなる努力を期待したい。

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・年度の開始時に、教務委員会による学年別履修ガイダンスを開催
- ・1 年生に対し、先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会を開催
- ・2 年生に対し、ゼミ担当教員がゼミ関連科目を示し、履修を推奨
- ・全学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部 - (32) - (34)

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

学習指導は、ガイダンスや個別相談、ゼミや演習、それぞれの授業のなかで適切な指導が行われるように配慮している。

1 年前期の「基礎ゼミ」は、基礎能力の育成をめざして、専任教員による少人数の指導体制が組まれている。2015 年度については、16 クラスの基本的なスケジュール、評価方法を基礎ゼミ代表教員が作成して授業運営の均質化を図った。各クラスにある程度柔軟性を持たせたいという判断から、①準拠するテキストを共通化する、②課題としてグループ・プレゼンテーションとレポートを各クラス必ず課す、③口頭発表の機会を 2 回設ける、④グループディスカッションなど学生参加型の学習形式を主として進める、⑤成績評価における配点は各クラス共通とする、との 5 項目を共通の運用条件として、その他の部分は、サブ教材とする文献の選択を含め、担当教員の自由裁量とした。

また 1 年次秋学期以降の学習との連関に関するガイダンス、キャリアアドバイザーによるガイダンスを、授業内の 1 コマを用いて行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ」学部－(32)－(34)
- ・2016 年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）「基礎科目（0 群）基礎ゼミ」（p6）

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

A B C

（～400 字程度まで）※取り組み概要を記入。

学生が授業時間以外にも学習時間（予習・復習）を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。特に、演習（ゼミ）は教員の裁量範囲ではあるが、時間外学習を促す空気を作っていく。課題を出すことで教員がフィードバックをすることを繰り返すようにする。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書（p13）

④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。

A B C

【具体的な科目名および授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・1 年次「キャリア調査研究法」、2 年次「キャリア体験学習」（国内）（国際）、「キャリアサポート実習」では、学生が自ら課題を見出し積極的に課題解決する技能を身につけることができるように配慮している。
- ・「地域学習支援士」では e ポートフォリオを活用した授業を実施することで、学生との双方向型の学習や評価の適正化に取り組んでいる。
- ・アクティブラーニング授業など新たな授業形態をこれまで以上に組織的に行うために、2015 年度から教務委員会内に担当者を配置し、2016 年度以降の次期カリキュラムの体系に位置付けることを検討する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部改善計画 2015 中間報告書（p20）

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・専門科目の各科目間の関係を一覧し、学部のカリキュラム体系について非常勤講師も含めて共通理解が図られるように、学部独自に各科目の 100 文字シラバス集を作成している。
- ・教務委員会によりシラバスの形式と内容のチェックを毎年、行っており不適切な場合には書き直しを要請している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・100 文字シラバス（学部ホームページ <http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/>）
- ・2015 年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・学生による授業改善アンケートや、授業相互参観などで組織的に実施している。執行部が授業アンケートに目を通すことや、相互授業参観では報告書を作成して教授会でも情報を共有している。
- ・シラバスが学生との一種の「契約」であるという点については、学部 FD ミーティング等を通じて周知徹底をはかっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD ミーティング資料（2015 年 10 月）
- ・2015 年度 キャリアデザイン学部自己点検シート（キャリアデザイン学部改善計画 2015 報告）

3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セメスター毎の学部平均の GPCA は教授会場で報告・検討され、講義科目における A+の割合は、10 月 FD ミーティングにおいて申し合わせどおり、20%以内におさめるように確認している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 10 回教授会議事録 (2015 年 10 月 16 日) 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部 (学科) 内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>転・編入者および社会人特別入試による入学者については、他大学等における既修得単位の認定を行なっている。学部の専門科目との対応を検討し、執行部の提案を教授会で審議・決定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回教授会議事録 (2015 年 4 月 1 日) 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>FD 推進センターによる GPCA の情報開示を行い、個々の教員 (兼任含む) に自覚を促している。</p> <p>なお、これまで成績評価基準の改善は必要な課題であった。2013 年度まで学部主催科目の GPA 平均が他学部比べて著しく高くなっていた (平均 2.8)。そのため一定規模 (50 人) 以上の授業で、A+ (20%以上) の成績評価を出している授業科目と担当教員名を教授会で開示することにより、当該の担当教員に A+を 20%以内には是正することをもとめた。兼任講師には学務事務課から連絡して周知した。その結果、2014 年度には A+の割合が 20%を超える科目が減っている。この作業プロセスは今後も継続していく。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 6 回教授会議事録 (2014 年 6 月 20 日) 	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部 (学科) ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部設置以来、4 年~5 年に一度カリキュラム改定を行なっており、新カリキュラムの検討の際には、従来の教育課程のもとでの教育成果について、時間をかけた検証・検討を行なっている。 ・教務委員会とともに質保証委員会が検証を行う体制を整えている。 ・2012 年度から開始した新カリキュラムが完成年度を迎えたので、今年度は教学改革委員会を発足させて、カリキュラム改訂の準備作業を行う。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部改善計画報告書 (2016 年 3 月) 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼任講師を含めた授業 FD ミーティングの場で、学部の平均スコアの開示、学生による自由記述の紹介を行い、それを材料にして意見交換を実施するなど、有効活用を図っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン学部における質保証への取り組み報告 (2016 年 2 月 27 日) 質保証委員会 ・2014 年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート ・キャリアデザイン学部改善計画 2015 報告 (2016 年 3 月) 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・以前の学生アンケート (新入生、卒業生) で満足度の低かった一部科目 (必修英語) については、2014 年度に、質保証委員会による学生モニタリングを実施したところ、問題点が判明した。それを受けて、2015 年 4 月から執行部、教務委員会などと科目担当教員と授業 FD ミーティング	

により改善をはかっている。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・新しい教育課程の実施による教育効果を高めるための教育方法を開発する。具体的には、①外部の企業、役所、教育機関、NPO などとの連携をとり、有効な教育方法として活用する体制を整える、②専門科目の GPA の適正化をはかる、③アクティブラーニングの取り組みをはかる、といった対応をとる。
- ・また、2016 年度の入学者数（定員 294 名）が 421 名と大幅に超過したことに対して、学部教育の質を維持するために増コマや、関連する必要な対策を講じることが緊急の課題となる。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では 1 年前期の基礎ゼミにおいて、基礎能力育成をめざし教育内容、方法、評価等の共通化を図っている点や、専任教員が大学の導入教育を担当していることなどは、他の学部の模範となる実践であり、高く評価できる。シラバスは適切に作成されており、授業がシラバスに沿って行われているかの検証は実施されている。アクティブラーニング授業など新たな授業形態をこれまで以上に組織的に行うために、教務委員会内に担当者を配置し、次期カリキュラムの体系に位置づけることを検討したり、成績評価基準に基づく成績評価の改善を図る取り組みなど、教育方法について積極的に改善に取り組んでいることがうかがえ、評価できる。また、オムニバス科目のように学生からの意見を踏まえて、授業のやり方を改善している点は大いに評価できる。学生アンケートで満足度の低かった科目（必修科目）に関して、2015 年 4 月から執行部、教務委員会などで改善を図っているのは適切である。

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

本学部では、学士（キャリアデザイン）の学位授与に当たり、以下のような能力を有していることを重視する。

1. キャリアデザインが求められる社会的背景、およびキャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について幅広く理解している。
2. 特定のアプローチについては、それを活用できる専門的知識やスキルを有している。
3. キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、自ら研究を深め、一定の成果を残すことができる。
4. 自己のキャリア形成や他者のキャリア形成支援に資する一定のソーシャルスキルを獲得している。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。

- ・体験型科目の一部では、学部で開発した Career Action Vision Test に基づく測定・評価を行なって、成果の検証をしている。
- ・SA 帰国前後の語学テスト：TOEFL-ITP（level 2）では、派遣学生 10 名全員がスコアを伸ばした。
- ・帰国直後報告会を実施し、学生に現地での学びや生活について英語プレゼンを行わせた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部入試パンフレット 2016
- ・2015 年度キャリアデザイン学部自己点検チェックシート
- ・キャリア事前指導テキスト

②成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・成績分布、進級については、学部として実態を把握し、留年者、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。低単位取得者に対する面談も実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部ホームページ
- ・抽出資料及び本人宛通知（学務）

③学習成果を可視化していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門演習の研究発表会 全てのゼミ生（2・3・4年生）が参加する学部全体の発表会である。2015年度、1月30日に開催された第10回学生研究発表会は、26ゼミから50本という多くの発表がエントリーされ、当日は9会場に分かれて、各会場5～6本ずつの発表が行われた。各会場では、1発表あたり、発表20分+質疑応答10分の時間が割かれ、同じ教室の他ゼミ生が司会とコメンテーターを務めた。 全発表終了後には当該教室の教員が講評を述べる。昨年度より、それぞれの会場ごとの教員講評の時間を確保したことによって、実質的な教育効果は向上したのではないかと考えられる。この学生研究発表会は内容的に年々充実してきており、今年度も高く評価できる発表が多かった。 ・体験型科目（インターンシップ、北京・ベトナムなど）、「地域学習支援士」の学習成果報告会 ・学生活動サポート奨励金制度は、学生の自主的活動の促進を目的に設けられた制度であるが、2015年度には14団体が奨励金助成を受けて独自性のある活動を展開した。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域学習支援士」の養成（2014年度） ・第10回学生研究発表会報告要旨集（2016年1月） ・2015年度キャリア体験学習・ベトナム報告集 ・キャリア体験学習（北京）2015 ・法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.13「学生活動サポート奨励金とその報告」（p135-185） 	
4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	
①学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職状況については、学部として実態を把握し、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。さらに、キャリアアドバイザーとも連携しながら、適切な支援を行なっている。 ・具体的には、卒業生の進路データをキャリアセンターから提供を受けて、全ての卒業生の進路状況を整理してデータ化した。そのデータは全教員が共有するとともに、キャリアアドバイザーを通じて在校生の進路相談にも活用している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度キャリアアドバイザー報告（2016年4月FDミーティング資料） 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題となっていた、年間の教育成果をとりまとめることや、研究・教育の外部発信するために、本学部キャリアデザイン学会のホームページを開設して当該情報を公開する体制を整えた。2016年3月に公開を開始した。 ・2014年度の学生モニタリングを受け、2015年度に教務委員会・執行部が兼任講師懇談会（必修英語）を春学期開始・終了時に実施している。参加型方式の導入やキャリアデザインへの言及が試みられ、一定の授業改善がなされている。 	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・本学部の教育目標の達成をはかるとともに、きめ細かい就職支援を実施する。
--

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学部では学生の学習成果について、体験型科目の一部で、学部で開発したスケールによる測定・評価の実施、SA派遣学生の派遣前後のTOEFL-ITPによるスコアの変化を可視化する取り組み、さらに学部全体による学生研究発表会の活発な実施、発表会の報告要旨を冊子にしているなど、学習成果を高めるための積極的な取り組みは、他の学部</p>

の参考となる優れた取り組みである。また、学部の年間の教育成果や研究・教育内容について、外部発信のためにホームページを開設して積極的に情報開示している点も高く評価できる。

成績分布、進級などの状況が学部単位で把握されており、学生の就職・進学状況についても学部単位で把握されているのは評価できる。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

本学部では、すべての入試経路にわたって、学部の基本的な理念・目的を理解し、学習への意欲を持ち、大学で学ぶために必要な基礎学力を有する学生を受け入れる。

また、上記の条件を満たしていることを前提としたうえで、多様な学習履歴を持つ学生、社会活動や文化活動等の実績を有する学生を幅広く受け入れることも方針としており、その具体化のために、一般入試（3科目型、センター試験利用）以外にも、社会人入試、キャリア体験特別入試、グローバル体験公募推薦入試、国際バカロレア利用自己推薦特別入試、指定校推薦、附属校推薦、商業学科など対象公募推薦入試、留学生入試、スポーツ推薦入試、転編入入試を実施している。いずれの入試経路からの入学者にも、高校までに履修する科目について、入学時に十分な基礎的素養を身につけていることを求める。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

これまで学生定員は適正に維持している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第1回 2016年度入試試験委員会議事 2016年4月7日「入学定員超過率」(別冊p10)

定員充足率 (2011～2015年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	280名	294名	294名	294名	294名	
入学者数	280名	301名	321名	287名	421名	
入学定員充足率	1.00	1.02	1.09	0.98	1.43	1.17
収容定員	1,120名	1,134名	1,148名	1,162名	—	
在籍学生数	1,213名	1,192名	1,243名	1,261名	—	
収容定員充足率	1.08	1.05	1.08	1.09	—	1.08

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

- ・入学経路ごとの学生の成績を比較して、教授会を中心にして絶えず検証している。また、一般入試による合格者の偏差値を経年的に点検している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部自己点検表

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」

と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部の学生の受け入れ方針について、すべての入試経路において必要な条件を明確化している。また、多様な学習履歴を持つ学生、社会活動や文化活動等の実績を有する学生を受け入れることを方針としている。そのために、学部独自の入試を含め、多くの入試経路を設定している。年に数回、5時限・6時限で、オープンゼミを開催し、高校生に参加を促しているのは、独自の学生募集対策として評価できる。入試経路ごとの学生の成績の比較などについて検証を図っているのも評価できる。

2012～15年度までの定員充足率は、適切に推移しているが、2016年度においては、定員の1.43倍と大幅な定員超過の入学数となっており、今後の教育の質の保証が重要な課題と考えられる。少人数教育はコマ増などの対策を講じているのは評価できるが、今後のさらなる取り組みを期待したい。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・学部として実態を把握。
- ・退学者のうち気になる事由の者については、執行部が面談を行う体制をとっている。
- ・留年者、卒業保留者、低単位取得者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2014年度キャリアアドバイザー報告（2016年4月FDミーティング資料）

②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。

A B C

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

- ・低単位取得者、留年者、卒業保留者については、キャリアアドバイザーが面談して適切な指導を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2014年度キャリアアドバイザー報告（2016年4月FDミーティング資料）

③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

- ・新入生1年生全員に対して留学生も含めて、アドバイザーが個別に対応しながら、留学生の生活や学業についてのアドバイス対応を行った。また、国際交流委員会が個別に留学生からの相談に対応している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2015年度自己点検シート
- ・各種学内委員会表

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度の入学数（定員294名）が421名と大幅に超過したことに対して、学部教育の質を維持するために増コマや、関連する必要な対策を講じることが緊急の課題となる。

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部では、卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況について学部単位で適切に把握されている。成績不振な学生に対して、適宜学部独自の有期雇用専門嘱託であるキャリアアドバイザーによる面談を行い、フォローアップされている。外国人留学生の就学支援については、グローバル教育センターが個別に相談に応じている。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

① 質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・ 委員構成：委員長1名、委員4名
- ・ 会議開催
2015年6月19日 第1回委員会 学生モニターへの調査について（7月3日に教授会提案）
2015年7月17日 第2回委員会 学生モニターへの調査について
2015年10月16日 第3回委員会 学生モニターへの調査について
2015年11月13日 学生モニターへの調査実施（2限・3限）
2015年11月17日 学生への調査実施（学部独自実施分）
2015年12月11日 第4回委員会 学生モニターへの調査結果の検討（同日の教授会に報告）
2016年2月26日 FDミーティング 教授会メンバーによる議論

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

キャリアデザイン学部の質保証委員会は、委員長1名、委員4名で構成されており、その活動として、学生モニターを活用してその結果を検討し、FDミーティング、教授会メンバーによる質保証活動へのフィードバックを実施していることは適切である。

【大学評価総評】

キャリアデザイン学部は、発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリアの三領域からなる教育課程に基づいた教員組織の編成、年齢等のバランスに配慮し、その教育目標を明確にしたうえで、学部内で計画的・積極的にFD活動を実施し、教育方法の改善に組織的に努めている点が高く評価できる。特に、学習成果について、体験型科目の一部で、学部で開発したスケールで測定・評価の実施、SA派遣学生の派遣前後のTOEFL-ITPによるスコアの変化を可視化する取り組み、さらに学部全体による学生研究発表会の活発な実施など、積極的に学習成果を高めようとする取り組みは、他の学部の参考となる実践である。全員参加型の学部運営として『キャリアデザイン学部改善計画2015検討委員会 報告書』を作成し、学部運営を可視化する努力は大いに評価できる。

2016年度に次期カリキュラムの改革を行う予定とあるが、これまでの教育内容と方法の検証結果を踏まえ、成果の継承とさらなる改善を期待したい。